

令和7年度 農産園芸研究課 課題一覧

(品目) 研究課題名	研究内容	研究期間	担当
(水稲・麦・大豆) 主要農作物優良種子生産管理事業	水稲・麦・大豆奨励品種の原種・原原種の供給と奨励品種決定のための品種選定試験及び有望品種の栽培法を検討する。	H10～	栽培・育種
(水稲) 植物調節剤の適用性試験	水稲の新除草剤・生育調整剤について、農薬登録のため効果と薬害を検定するとともに本県における雑草防除指針の策定に資する。	S39～	栽培・育種
(水稲) プラスチック被膜殻を排出しない水稲全量基肥栽培の確立	被覆尿素肥料はプラスチック被膜殻がほ場外流出することによる環境への影響が懸念されていることから、被覆肥料を用いない緩効性肥料による全量基肥栽培技術を検討する。	R5 ～ R7	栽培・育種
(水稲) 除草剤に頼らない早期水稲用雑草防除技術の確立	水稲の有機栽培における最大の問題である雑草防策について、知見の少ない早期栽培で適用できる雑草防除技術を確立し、有機農業面積の拡大に資する。	R6 ～ R8	栽培・育種
(水稲) 耕畜連携を加速する早期飼料用米栽培技術の確立	飼料高騰、国の制度改正により飼料用米専用品種への要望が高まっていることから、早期栽培用の飼料米品種を選定し、栽培法を確立する。また、地域資源循環を目的に、耕畜連携により作成した堆肥複合肥料を活用した栽培法を確立する。	R6 ～ R8	栽培・育種
(藍) タデアイ新品種育成と新用途開発	現在栽培されているタデアイ品種は匍匐性が強く機械収穫に不向きであるため、立性で色素含有量が多い新品種を育成し、栽培効率を向上させる。また、天然藍に含まれる赤紫色素インディルピンを効率的に染料・顔料とする技術を開発することで、これまで実用化されていなかった「赤い藍」製品を実現する。	R5 ～ R7	栽培・育種
(雑穀・ごうしゅいも) 遺伝資源の保存	雑穀類、野菜、花き、山菜等の遺伝資源を維持保存する。	H25～	栽培・育種
(イチゴ) 収穫期間が長く、途切れず収穫できるイチゴ新品種の育成	県オリジナル品種として‘阿波ほうべに’を育成したが、大果で年内収量が多いものの、中休み期間が長く、果皮が柔らかく棚もちが悪いことが問題で、現場への普及が進まない。そこで、連続出蕾性を有し、高温期においても果皮が硬く棚もちに優れる品種を育成する。	R5 ～ R7	栽培・育種
(サツマイモ) サツマイモ新品種の育成	「なると金時」の上品な甘さと外観品質は、県内外で評価が高いが、近年の夏場の高温により、生育不良や立枯症状が問題となっている。そこで、①良外観、②着生するイモの揃いが良い(M、Lサイズ中心)、③生育が旺盛で暑さに強い品種を目標として育成する。	R5 ～ R7	栽培・育種
(サツマイモ) スマート技術向けの特性を持つ穀物等品種の開発(省力化を実現する機械化栽培体系に適した青果用カンショ品種の開発)	省力化を実現する機械化栽培体系に適した青果用かんしょ品種の開発に向けて、農研機構で育成されたかんしょの有望系統について、地域適応性と機械化栽培適性を評価する。	R6 ～ R7	栽培・育種、 スマート農業

令和7年度 農産園芸研究課 課題一覧

(品目) 研究課題名	研究内容	研究期間	担当
(レンコン) レンコン腐敗病の特徴解明と効果的な防除技術の確立	R4年度までに、徳島県のレンコン腐敗病の原因がフザリウムコミュン(F.commune)であることが特定できた。そこで、同菌による腐敗病の特徴を詳しく調べ、効率的な防除対策を確立する。	R5 ～ R7	スマート農業
(ミニトマト) ミニトマト送風受粉機開発による果実生産の安定・省力化	簡易な送風受粉機の試作と現地実証、自動走行送粉受粉ロボットの市販化を目指し企業との連携を模索する。	R7 ～ R9	栽培・育種
(ミニトマト) 画像AIによるミニトマト果実収穫予測システムの開発	ミニトマトの契約栽培では、事前に出荷量を取り決めている。そのため、収穫物が不足した場合は補填する必要があり、余剰収穫できた場合は無駄になる。2週間程度前に出荷量が予測できれば、販売戦略を立てることができる。そこで、AIによる画像認識技術と果実の熟度診断技術を組み合わせ、2週間先の出荷量を予測できるシステムを開発する。	R5 ～ R7	スマート農業、果樹
(イチゴ) 植物育成用LEDを活用した施設果菜類の増収技術確立	本県イチゴの主力品種「さちのか」は、果実品質は優れているものの、収量が少ない。特に、日射量の少ない厳寒期には大きく収量が低下する。そこで、近年、技術発展が著しい補光技術による増収技術を検討した。	R5 ～ R7	スマート農業
(イチゴ) スマートポリネーター監視システムで活動把握！適材適所なポリネーター投入によるイチゴ高収益生産の実現	ミツバチを主としたポリネーターの活動低下によるイチゴの受精不良果を削減するため、ポリネーター活動監視システムを開発し、品種や季節を考慮したポリネーター補完技術導入マニュアルとともに実用化する。そして、受精不良果を低減し、イチゴの高収益生産を実現する。	R5 ～ R9	スマート農業 栽培・育種
(イチゴ) ドローンによるダウンウォッシュを活用したスマートイチゴ栽培管理手法	ドローンによるダウンウォッシュを活用し、植物生態情報をモニタリングし、生育状況を正確に把握する。そして、モニタリングデータを元に植物に最適な栽培管理を実現する。更に、ミツバチ等、不安定な訪花昆虫の代替技術として、ドローンによる送風受粉技術を確立する。	R5 ～ R7	栽培・育種 スマート農業
(ブロッコリー) ブロッコリーの機械収穫を可能にする花蕾生育の斉一性向上技術の確立	ブロッコリーの花蕾生育は揃いにくく、機械による一斉収穫は普及していない。一方、ブロッコリー経営体は作付面積の拡大により、花蕾の度重なる選択収穫が労力的に負担になっている。そこで、花蕾の肥大が揃う栽培条件を明らかにし、「1～2回の花蕾選択収穫後、一斉機械収穫」栽培体系を構築する。	R5 ～ R7	栽培・育種 スマート農業
(ブロッコリー) 安定した4月収穫のためのブロッコリーべたがけ管理法の確立	ブロッコリーの4月収穫には不織布の「べたがけ」が普及しているが、被覆期間は農家の勘に頼っており、収穫時期が安定しない。そこで、定植時期や気象条件に応じた被覆期間の判断基準を明らかにし、安定した4月収穫を実現する。	R5 ～ R7	栽培・育種 スマート農業
(タラノメ・シロウリ) 遺伝資源の保存	雑穀類、野菜、花き、山菜等の遺伝資源を維持保存する。また、県の育成品種を保存栽培する。	H25～	スマート農業

令和7年度 農産園芸研究課 課題一覧

(品目) 研究課題名	研究内容	研究期間	担当
(スダチ) 徳島スダチの新たな品種・生産技術 開発による周年供給体制の強化	①突然変異育種による新品種の開発(早生品種)、②双幹形仕立てによる省力生産システムの確立、 ③加温ハウス栽培の省エネ温度管理技術の開発、④IoTを活用した貯蔵管理技術の確立を研究し、 周年供給体制の強化を図る。	R6 ～ R8	果樹
(中晩柑) 徳島県のオリジナル新品種カンキツ の開発	ポストハッサクとして育成してきた良食味な中晩柑「上板29号」の現地適応性試験を通して、県西 部のカンキツ産地への導入の可能性を検討する。また、新しい系統の選抜を進める。	R7 ～ R9	果樹
(フィンガーライム、アボカド) 魅 力ある熱帯果樹の低コスト生産モデル 確立に向けた栽培技術の開発	温暖化により亜熱帯・熱帯果樹の栽培が可能になり県内にアボカド、フィンガーライムの導入が進ん でいる。これら品目はハウスミカン転換品目として有望と考えられる。そこで、アボカドの栽培安定・ 低コスト化技術の開発、フィンガーライムの栽培・品種特性の解明を行い、現地への技術普及を図る。	R7 ～ R9	果樹
(ナシ) ナシ新品種によるブランド力の向上	本県では、「幸水」、「豊水」が栽培面積の90%以上を占め、特に「豊水」は老木化による生産性 低下が顕著である。また、西南暖地では、近年の温暖化により、冬期の低温が不足し、花芽の発芽不良 が問題となっている。そこで、「幸水」、「豊水」よりも低温要求量が少なく、花芽発芽不良が発生し にくく、果実品質の高い新品種を育成する。	R7 ～ R9	果樹
(ナシ) 輸入花粉を代替える国産ナシ花粉 確保技術の確立	ナシの人工受粉は着果安定に不可欠であり、使用する花粉は中国からの輸入に頼っていた。2023年 9月以降、中国で発生した火傷病のため、花粉が輸入禁止となった。そのため、多くの園地で花粉が不 足しており、問題となっている。そこで、幸水、豊水等の剪定枝から花粉を採取する技術を開発する。 幸水、豊水の開花特性、幸水の開花促進技術を開発し現地実証を行う。	R7 ～ R9	果樹
(ナシ) 育苗を要しないジョイント仕立て法 の開発	ナシのジョイント仕立において、大苗育苗することなく、市販の苗を用いてジョイントが可能となる 栽培法を開発する。	R5 ～ R7	果樹
(果樹全般) 本県に適應する果樹品種の比較試験 (系統適応性比較)	(独)農研機構果樹研究所が育成した品種の系統適応性試験を実施する。	S39 ～	果樹